

二部地区 歴史マップ



交通・アクセス



《お車の場合》
JR米子駅から約25分
米子鬼太郎空港から約1時間
米子自動車道 溝口ICから約15分

《電車の場合》
JR伯耆溝口駅からデマンドバスで約10分

《バスの場合》
JR伯耆溝口駅からデマンドバスで約10分

【発行・問い合わせ先】
二部地区活性化推進機構
〒689-4233
鳥取県西伯郡伯耆町二部1562番地1
(町立二部公民館内)
電話・FAX 0859-62-7159
E-mail nibukoumin@houki-town.jp

伯耆町「二部地区」とは

二部地区は、伯耆町の南西部に位置し、歴史と文化、そして美しい自然など、見どころが沢山ある地域です。

主なものとして、出雲街道の本陣(大名宿)足羽家の旧宅や世界的彫刻家辻晋堂の作品、鳥取県無形民俗文化財「蛸舞式神事」の福岡神社、その近くの福岡山製鉄所跡があります。

《参考》二部地区の世帯数・人口の推移

明治40年	514世帯	3,054人
昭和44年7月	483世帯	2,094人
平成27年7月	397世帯	1,161人

特産品



イベント情報

《たたらまつり》 二部公民館まつり
毎年2月最後の土・日・月 に開催
(最終日は正午まで)

《だんだんまつり》 文化センターまつり
毎年2月 土・日 に開催

《蛸舞式神事》 福岡神社の秋季大祭の神事
毎年10月 第3日曜日 に開催

ボランティアガイド

二部地区活性化推進機構では、事前にお申し込みいただいた方にお一人200円でボランティアガイドを手配しております。
※希望日の2週間前までに要予約

(平成27年11月作成)

⑨間地峠(まじだわ)



米子方面から出雲街道を南へ進むときの最初の峠で、標高482m、四十曲峠に次ぐ難所だった。晴れた日には隠岐の島や美保関の灯が見えたという。頂上広場には出茶屋が2、3軒あり、大繁昌した。広場の一角に、高さ約1.6mの延命地蔵が今も建っている。

⑩畑池 池田家屋敷跡



慶長5年(1600)の関ヶ原の戦い以後、因幡・伯耆の大名は度々変わった。元和3年(1617)に池田光政が両国の大名となり、寛永9年(1632)には岡山の名門池田光仲と国替えになった。池田光政の一族忠兵衛元成が、この地に居住し、それまでの山形村が池田村と呼ばれるようになったという。

⑪福岡山製鉄所跡



明治21年(1888)日野町根雨の近藤家は、たたら製鉄でつくられたケラを打ち砕く大鍛冶の工程に蒸気機関を取り入れた製鉄所を福岡に建設した。福岡山製鉄所では多くの人が働き、100戸を超す世帯数があり、雑貨店や芝居、活動写真の興行もあった。大正末期まで操業された。

⑫たこさん(福岡神社神事)



福岡神社の秋の大祭に行なわれる蛸舞式神事は、祭神が蛸に助けられたという社伝にちなんだ神事で通称「たこまわし」と呼ばれ、日本三大奇祭の一つである。昭和61年(1986)、鳥取県の無形民俗文化財に指定された。

⑬鳥取県名木100選の椿



鳥取県名木100選に選ばれ、野上川上流の左岸、福岡集落にある。樹齢は分からないが、幹周2.2mの巨木で、幹の途中から多くの枝が張出し、まるで千手観音の手を思わせるような見事な形である。平成元年(1989)、町指定文化財に指定された。

⑭間賀の滝



源は鎌倉山(731m)で、年間水量が変わらず、滝は三つに分かれ、もっとも大きい一の滝、落差が大きい二の滝、さらに下流の三の滝からなる。言い伝えによる鎌倉山合戦や巨岩に住む蛇を祀る蛇神さんなど話題に富む。

①外構（とがまえ）城跡



出雲街道沿いに多い城跡の1つで、福吉集落の背後にある。進氏の居城といわれる。六百数十年の前、進四郎三郎助貞が数十騎を引きつれ、船上山の後醍醐天皇のもとにはせ参じたという伝承がある。

②四代目朝日山四郎右衛門夫婦の墓



本名は仲田政吉といい、二部の生まれである。若いころから強力で知られ、力士を志し、大坂相撲に入門した。真鶴(まなづる)のしこ名で活躍し、当時の最高位の大関に昇進した。引退後は朝日山部屋の四代目頭取となる。二部の稲荷神社を篤く信仰した。この墓は天保15年(1844)、門弟たちが建てたものである。

③足羽篤之介の墓



篤之介は足羽家12代伊右衛門の4男で、文武両道の俊才として知られた。江戸の砲術家江川太郎左衛門英龍方に入門して修業中に戊辰の役が始まり、官軍方の鳥取藩の砲兵隊長として従軍力戦し、下野(しもつけ)の国宇都宮市で戦死した。享年28。この墓は鳥取藩が建立したものである。

④雲州松平侯本陣跡



足羽氏は越前足羽(あすわ)郡の名族で、領主朝倉家の家臣だった。四百四、五十年前、朝倉滅亡のころ、将監重成は縁故ある二部に移り、二部足羽家の初代となる。やがて松江藩の本陣となり大庄屋に任ぜられ、名家として知られ17代まで続いた。本陣の建物の一部が現存するのは珍しく、貴重な存在である。

⑤拓士の像

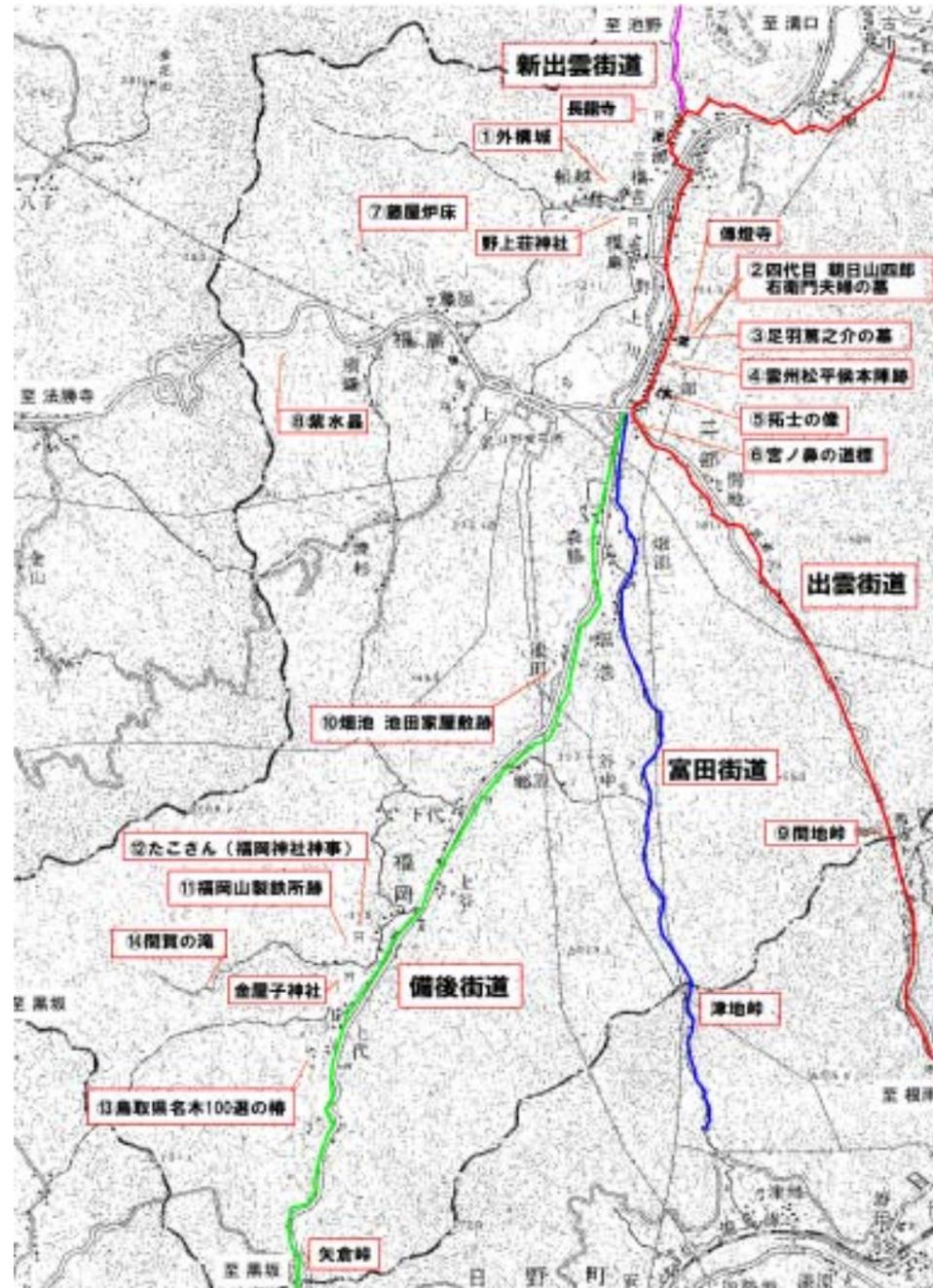


二部小学校の校門に建つこの像は、二部出身の彫刻家辻晋堂が、昭和16年(1941)に製作し、もとはセメントだった。辻はのちに世界的彫刻家として知られるようになる。長年の歳月を経て傷みが目立つようになり、約半世紀後の平成元年にブロンズ化された。二部地区のシンボルとして人々に親しまれている。原像は今、鬼の館にある。

⑥宮ノ鼻の道標



二部集落の南のはずれに立つ高さ約166cmの道標で、嘉永2年(1849)の年号がある。この場所は、出雲・備後両街道の分岐点だった。大坂道頓堀の宿屋の経営者近江屋市次郎がPRのため建てたもので、出雲街道では有名な道標である。

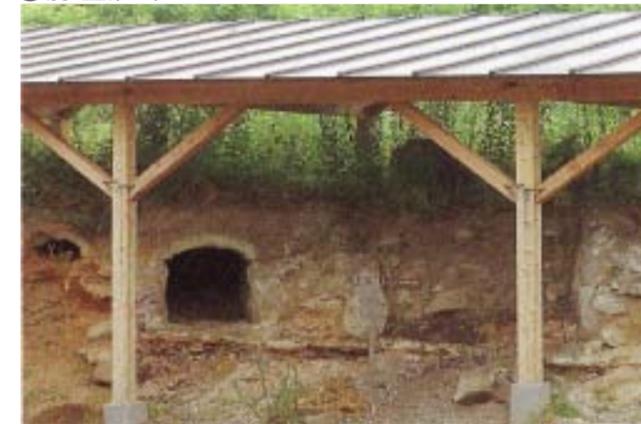


⑧紫水晶



明治の初期、藤屋集落の樋(ひい)ヶ谷で、たたら製鉄用の山砂鉄採取のためかんな流しをしているとき、偶然に発見された。重さが3.9kgもあり。非常に美しく、大評判になる。東京に運ばれ、長らく上野の国立博物館に展示されていた。

⑦藤屋炉床



藤屋炉床は昭和52年(1977)に道路拡張工事で発見された。江戸時代につくられた製鉄炉の地下の状態をよく残している。現在は保存のため埋め戻されている。昭和53年(1978)、町指定の文化財に指定された。